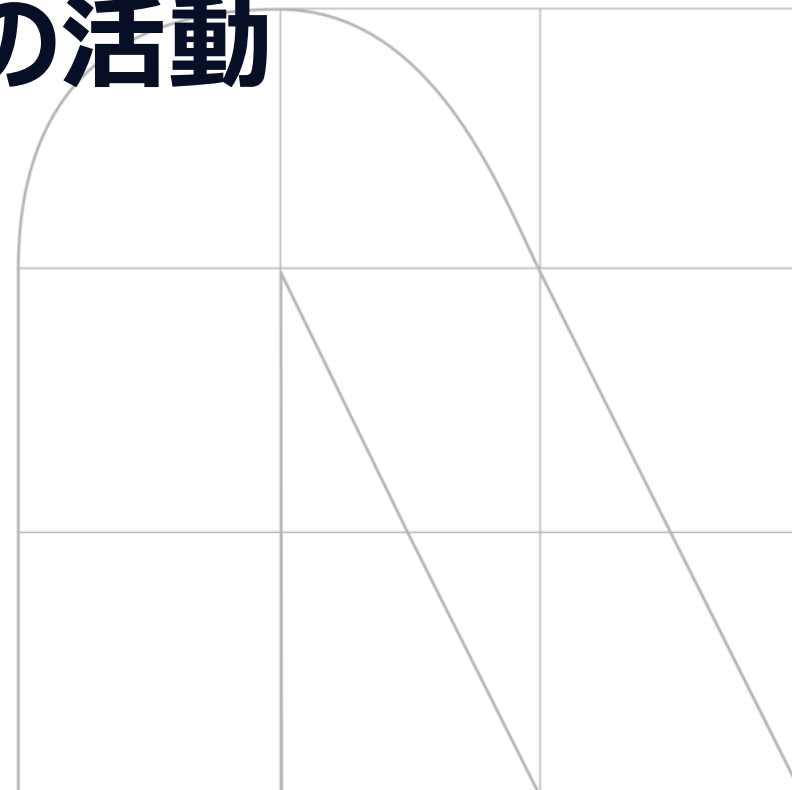


千葉県介護業務効率アップセンターの実績報告 (2月28日時点)

2026年3月26日

01

千葉県介護業務効率アップセンターの活動



01 千葉県介護業務効率アップセンターの活動_相談実績

相談実績（2025年4月1日 - 2026年2月28日）

	4/1 - 4/30		5/1 - 5/31		6/1 - 6/30		7/1 - 7/31		8/1 - 8/31		9/1 - 9/30		10/1 - 10/31		11/1 - 11/30		12/1 - 12/31		2026/1/1-1/31		2/1-2/28		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
介護事業所	2	22.2%	4	33.3%	94	84.4%	54	98.2%	293	99.7%	23	100%	73	97.3%	15	78.9%	21	87.5%	20	95.2%	4	66.7%	603	94.7%
開発企業	7	77.8%	8	66.7%	5	15.6%	1	1.8%	1	0.3%	0	0%	2	2.7%	4	21.1%	3	12.5%	1	4.8%	2	33.3%	34	5.3%
合計	9	100%	12	100%	99	100%	55	100%	294	100%	23	100%	75	100%	19	100%	24	100%	21	100%	6	100%	637	100%

- 2026年2月28日時点の総相談件数は**637件**となった。（昨年度同月比**+554件**）
- 本年度は、介護テクノロジー定着支援事業費補助金に関連する相談が多くあったこともあり、介護事業所からの相談が多くの割合を占めた。

01 千葉県介護業務効率アップセンターの活動_相談内容・試用貸出実績

・ 相談内容（2025年4月1日 - 2026年2月28日）

(1)介護事業所からの相談

相談内容	件数
介護ロボット・ICT機器導入・活用	233
業務改善	222
補助金	156
研修問い合わせ・申し込み	135
人材確保・定着 / 経営改善	48
センターの情報収集	26
介護報酬・加算	21
その他	37
合計	878

※相談内容は複数選択可

(2)開発企業からの相談

相談内容	件数
普及相談	22
情報収集	6
補助金・基金の情報収集	5
実証相談	3
開発相談	3
その他	11
合計	50

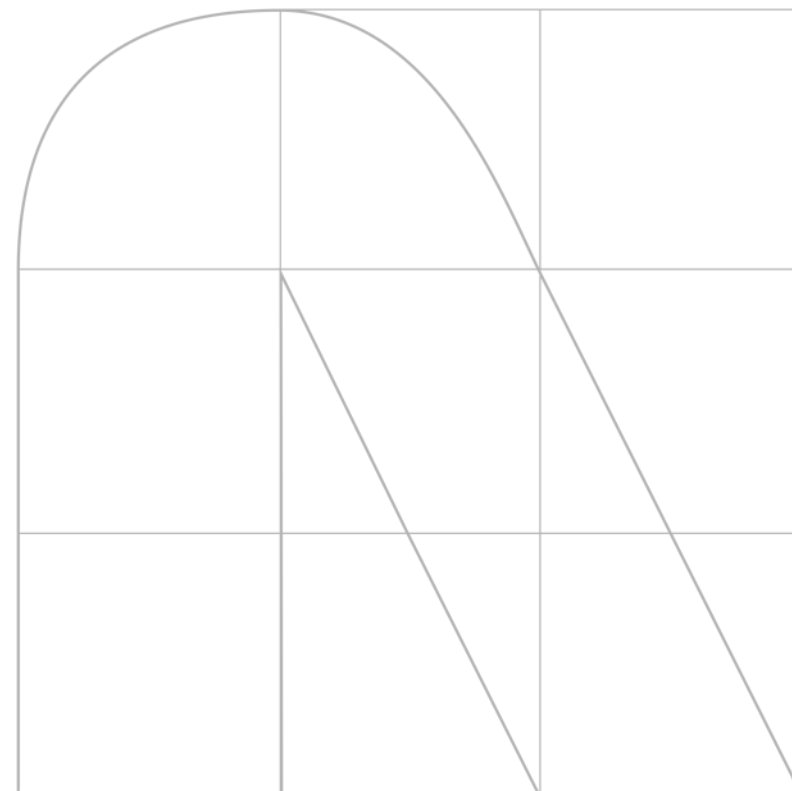
※相談内容は複数選択可

(3)試用貸出実績

機器分野	件数
見守り・コミュニケーション	10
移乗支援	7
入浴支援	4
介護業務支援システム	2
排泄支援	1
機能訓練支援	1
その他	5
合計	30

02

研修・伴走支援



02 研修・伴走支援_業務改善研修（プログラム）

- 業務改善研修は第4回まですべての研修を終了

実施済み

介護ロボット導入 6つの手順	セミナー	開催 時期	到達目標	実施内容
1. 改善活動の準備をしよう	基礎 セミナー	6月2日	生産性向上の意義や業務改善のステップを理解すること	業務改善とはなにか
2. 現場の課題が見える化しよう	第1回	7月9日 7月10日	参加事業所それぞれの課題が見える化できており、課題を解決するための道筋及び道筋に沿った業務改善のイメージができています	因果関係図づくりワークショップ
3. 実行計画を立てよう	第2回	7月14日 7月15日	- 課題に則した機器等の詳細な機能の把握を行い選定ができる - 導入計画における成果指標の設定及び試行的な導入の準備内容の洗い出しができる	- 導入計画における成果指標と仮説の設定 - 試行的な導入の準備内容の洗い出し
4. 改善活動に取り組もう	第3回	12月1日 12月5日	- 他の事業所の取り組み等を踏まえて、課題解消のヒントを得ることができる - 小さな成功事例の設計・共有を自施設で実践できる - 手順書・マニュアル作りが自施設で行える	- 試行的な導入におけるポイント - 小さな成功事例の設計ワークショップ - 手順書・マニュアルづくり、活用ルール策定のポイントの説明
5. 改善活動を振り返ろう	第4回	1月21日 1月22日	- 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証ができる - 自施設での取組や成果を実体験に基づき、発表できる	- 活動の振り返り - 今後の活動の計画策定 - 導入の取組及び成果発表
6. 実行計画を振り返ろう				

02 研修・伴走支援_在宅系事業所向けの業務改善オンライン研修（プログラム）

- 在宅系事業所向けの業務改善オンライン研修は第3回まですべての研修を終了

実施済み

介護ロボット導入・業務改善 6つの手順	セミナー	開催 時期	到達目標	実施内容
1. 改善活動の準備をしよう	基礎 セミナー	6月2日	生産性向上の意義や業務改善のステップを理解すること	実施時間：2時間 業務改善とはなにか
2. 現場の課題を見える化しよう	第1回 (集合)	8月22日 8月28日 (Zoom)	参加事業所それぞれの課題が見える化できており、課題を解決するための道筋及び道筋に沿った業務改善のイメージができています。	実施時間：3時間 因果関係図づくりワークショップ
3. 実行計画を立てよう	第2回	(希望制) 個別Zoom	- 課題に則した機器等の詳細な機能の把握を行い選定ができる - 導入計画における成果指標の設定及び試行的な導入の準備内容の洗い出しができる	実施時間：2時間 - 導入計画における成果指標と仮説の設定 - 試行的な導入の準備内容の洗い出し
4. 改善活動に取り組もう	第3回 (集合_2回目)	12月11日 12月12日 (Zoom)	- 他の事業所の取り組み等を踏まえて、課題解消のヒントを得ることができる - 小さな成功事例の設計・共有を自施設で実践できる - 手順書・マニュアル作りが自施設で行える。	実施時間：2時間 - 試行的な導入におけるポイント - 小さな成功事例の設計ワークショップ - 手順書・マニュアルづくり、活用ルール策定のポイントの説明
5. 改善活動を振り返ろう	(希望制) Zoom		- 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証ができる - 自施設での取組や成果を実体験に基づき、発表できる。	- 活動の振り返り - 今後の活動の計画策定 - 導入の取組及び成果発表
6. 実行計画を振り返ろう				

02 研修・伴走支援研修・伴走支援_業務改善研修（応募・参加数）

・ 応募数・参加数

研 修						
応募数	67事業所（募集枠：60事業所）					
参加数	64事業所 ※3事業所については過年度参加・介護保険法外サービスのため参加不可					
介護サービス 種別内訳	施設系		58			
	在宅系		6			
参加事業所 所在市町村	千葉市	8	市川市	2	鎌ヶ谷市	1
	流山市	7	八千代市	2	我孫子市	1
	松戸市	6	富里市	2	八街市	1
	船橋市	5	市原市	2	山武市	1
	香取市	4	木更津市	2	匝瑳市	1
	野田市	3	山武郡	2	長生郡	1
	柏市	3	成田市	2	夷隅郡	1
	いすみ市	3	習志野市	1		
	浦安市	2	茂原市	1		

伴走支援				
応募数	34事業所（募集枠：25事業所）			
参加数	25事業所 ※同一法人で複数申込みのあった事業所、地域偏在等を考慮し選考			
介護サービス 種別内訳	施設系		22	
	在宅系		3	
参加事業所 所在市町村	千葉市	5	我孫子市	1
	船橋市	4	富里市	1
	松戸市	3	八千代市	1
	流山市	2	いすみ市	1
	野田市	2	夷隅郡	1
	習志野市	1		
	香取市	1		
	市原市	1		
	浦安市	1		

02 研修・伴走支援_在宅系事業所向けの業務改善オンライン研修（応募・参加数）

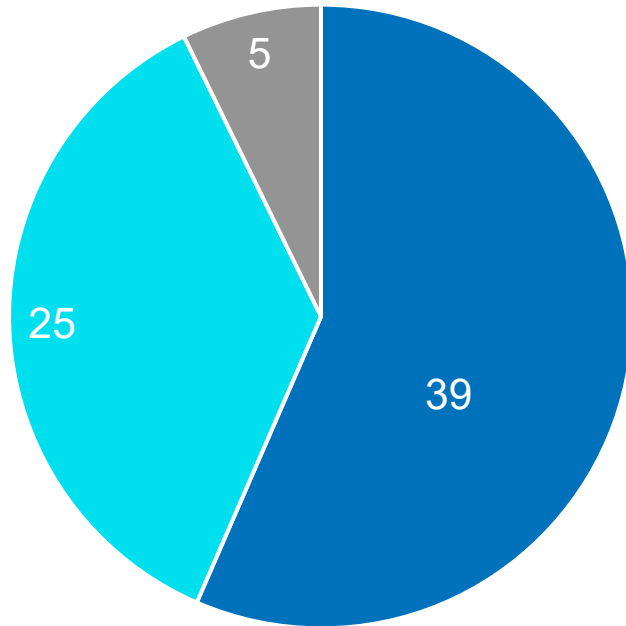
- 応募数・参加数

応募数	37事業所（募集枠：10事業所）					
参加数	20事業所					
介護サービス 種別内訳	居宅介護支援			9		
	訪問介護			6		
	通所介護			5		
参加事業所 所在市町村	船橋市	2	我孫子市	1	茂原市	1
	千葉市	2	習志野市	1	匝瑳市	1
	市川市	2	佐倉市	1	大網白里市	1
	銚子市	2	市原市	1	館山市	1
	松戸市	1	木更津市	1		
	柏市	1	富里市	1		

02 研修・伴走支援_業務改善研修（アンケート結果）

- ・ 研修参加者へのアンケートから、満足・やや満足が64件（92.8%）であり、研修の満足度は非常に高い状況である。一方で、来年度に向け改善点もあった

業務改善研修満足度



N = 69

- 満足
- やや満足
- どちらともいえない
- やや不満
- 不満

※「やや不満」「不満」を選択された回答者はいずれもなし

「満足」選択の理由（一部抜粋）

- ✓ 事業所が抱える課題の整理と改善までの道筋の言語化を支援していただくことにより、職員間で目的や意図を共有しやすくなり、取組の成果も検証しやすくなった。また、伴走支援により継続的に相談できたことも心強かった。
- ✓ 生産性向上のやり方が全く分からなかったのを、先導して貰えて助かりました。細かくアドバイスなどをいただけたのも助かりました。また、他の施設の様子なども知ることができて良かったです。

「やや満足」選択の理由（一部抜粋）

- ✓ 介護テクノロジーの導入だけでなく、課題の抽出、導入の目的を考える機会となった。今後の施設の課題解決に向けた取り組みを継続していきたい。
- ✓ 今までトップダウンで行っていたICT導入や業務改善を、現場スタッフを巻き込みボトムアップで実行して行く流れを作ることができた。

「どちらともいえない」選択の理由（一部抜粋）

- ✓ 業務上の課題の考え方の導き方については、とても参考になった。一方、実際に介護テクノロジーを導入するところまでできていないので、これからだと思う。

02 研修・伴走支援_介護事業所の2年目業務改善研修（プログラム）

- 介護事業所の2年目業務改善研修は第3回まですべての研修を終了

実施済み

セミナー	開催時期	研修テーマ	実施内容
第1回	7月18日（金）	昨年度作成した実行計画と実施した改善活動を振り返り、今年度実施する改善活動の計画を立てよう	- 昨年度の成果および課題の振り返り - 今年度の計画を策定
第2回	11月28日（金）	今年度実施している改善活動を振り返り、計画の見直し等を実施しよう	- 上手くいっている点・改善が必要な点を整理 - 計画の修正
第3回	2月10日（火）	今年度作成した実行計画と実施した改善活動を振り返ろう	- 成果発表形式で振り返り - 次年度に向けた取り組みの検討

02 研修・伴走支援_介護事業所の2年目業務改善研修（応募・参加数）

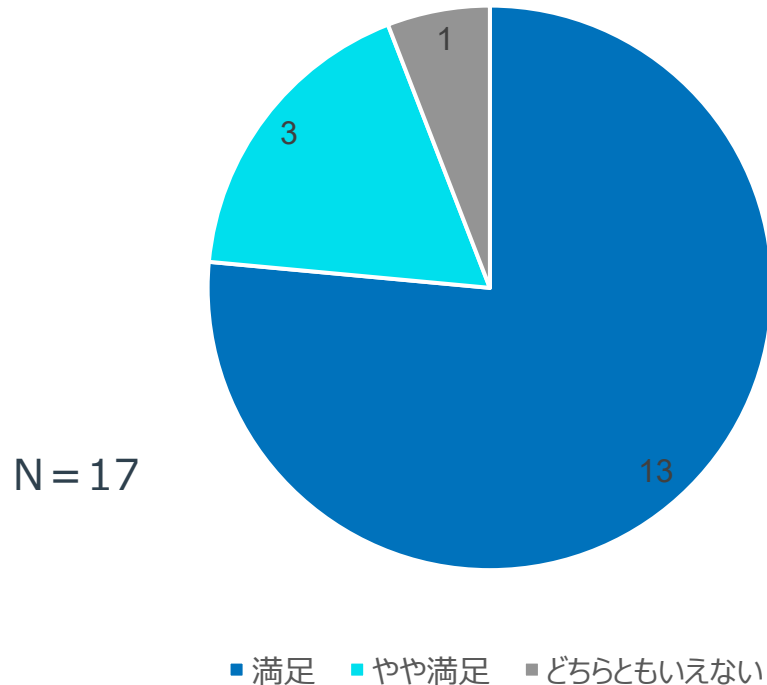
- 応募数・参加数

応募数	13事業所（募集枠：10事業所）	
参加数	13事業所	
介護サービス 種別内訳	施設系	13
	在宅系	0
参加事業所 所在市町村	船橋市	4
	千葉市	3
	松戸市	1
	柏市	1
	鎌ヶ谷市	1
	富津市	1
	香取郡	1
	夷隅郡	1

02 研修・伴走支援_介護事業所の2年目業務改善研修（アンケート結果）

- 研修参加者アンケートでは、「満足・やや満足」が16件（94.1%）となり、満足度は非常に高かった。今後は各事業所の取組の違いも踏まえ、研修の進め方を検討

2年目業務改善研修満足度



※「やや不満」「不満」を選択された回答者はいずれもなし

「満足」選択の理由（一部抜粋）

- ✓ 業務改善の取り組みの流れを2年間学ぶことで、次に繋がっていくと感じた。
- ✓ 導入してそれっきりになる事なく、その後の経過に関してもどれだけ良くなったのか、課題の部分も見え、より良い職場環境にしていけるようサポートしてもらうことが出来た。
- ✓ 色々な事業所の取り組みが見れたのはとても刺激になった。また、専門的な進め方を学べたのは良かった。

「やや満足」選択の理由（一部抜粋）

- ✓ 参加しなければ、気付けなかった点やどういった所に目を向ければいいのか等、レベルアップできた気がする。
- ✓ 取り組みの進捗が想定よりも進まない現状があった。

02 研修・伴走支援_介護助手導入のためのセミナー（プログラム）

・ 介護助手導入のためのセミナーは第3回まですべてのセミナーを終了

実施済み

セミナー	開催時期	セミナーテーマ	実施内容
第1回	8月20日（水）	介護助手導入の概要とポイント	- 介護助手導入の意義や目的、導入にあたっての注意点やポイントの講義 - 介護助手に依頼する業務についてワークショップ
第2回	12月18日（木）	介護助手導入活動の振り返り	介護助手の導入計画や募集要項の進捗確認及び計画の練り直し
第3回	2月2日（月）	介護助手募集活動の振り返り、次年度に向けての活動計画	- 成果発表形式で振り返り - 次年度に向けて取り組みを検討

02 研修・伴走支援_介護助手導入のためのセミナー（応募・参加数）

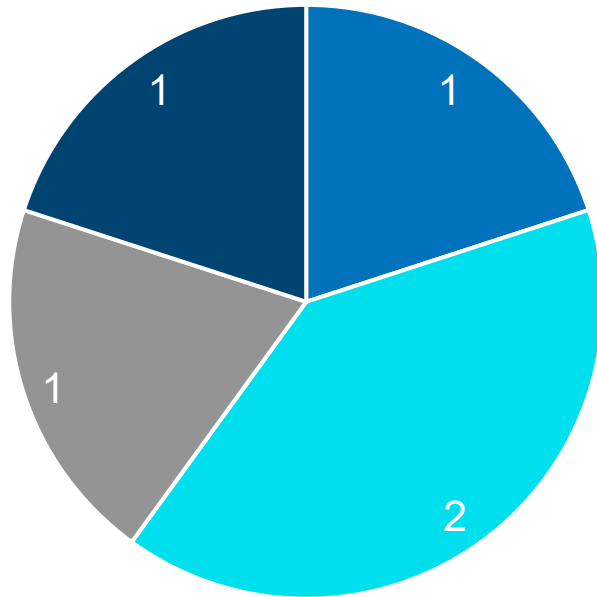
- 応募数・参加数

伴走支援	18事業所（募集枠：20事業所）			
参加数	18事業所			
介護サービス 種別内訳	施設系		16	
	在宅系		2	
参加事業所 所在市町村	船橋市	3	八千代市	1
	市原市	3	いすみ市	1
	千葉市	2	成田市	1
	木更津市	2	印西市	1
	香取市	1	佐倉市	1
	袖ヶ浦市	1	長生郡	1

02 研修・伴走支援_介護助手導入のためのセミナー（アンケート結果）

- 研修参加者アンケートでは、「満足・やや満足」が3件（60.0%）であった。本セミナーは今年度開始した新たな取組であるため、参加者からのフィードバックを基に、今後のセミナー内容および進め方の見直しを検討する

介護助手セミナー満足度



N = 5

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満

※「不満」を選択された回答者はなし

「満足」、「やや満足」選択の理由（一部抜粋）

- ✓ 3回にわたり、丁寧な説明と実践に向けた準備、取り組みを学ぶことができた。
- ✓ 業務の切り出し方/高校生、シニア層等へのアプローチの仕方などについて知ることが出来た。

「やや不満」選択の理由

- ✓ 今回利用した「Sketter」を用いて介護助手を導入することは、募集という観点において、地域的に難しかった。一方、介護助手の業務について、ありがたについて考える機会となり有意義だった。

「どちらともいえない」選択の理由

- ✓ 介護助手の導入方法について、他施設の方法等や業務の切り出しなど学ぶ機会となり、今後役立てていきたいと考えている。「Sketter」については期限付きなので、今後はどうしていくのか考えていく必要がある。

02 研修・伴走支援_モデル事業所（対象事業所）

- 今年度は県内9圏域の内、3圏域（東葛北部・香取海匝・君津）の介護施設・事業所を指定

施設

特別養護老人ホーム柏きらりの風

在宅

のぞみ会居宅介護支援事業所

施設

特別養護老人ホーム中郷記念館

在宅

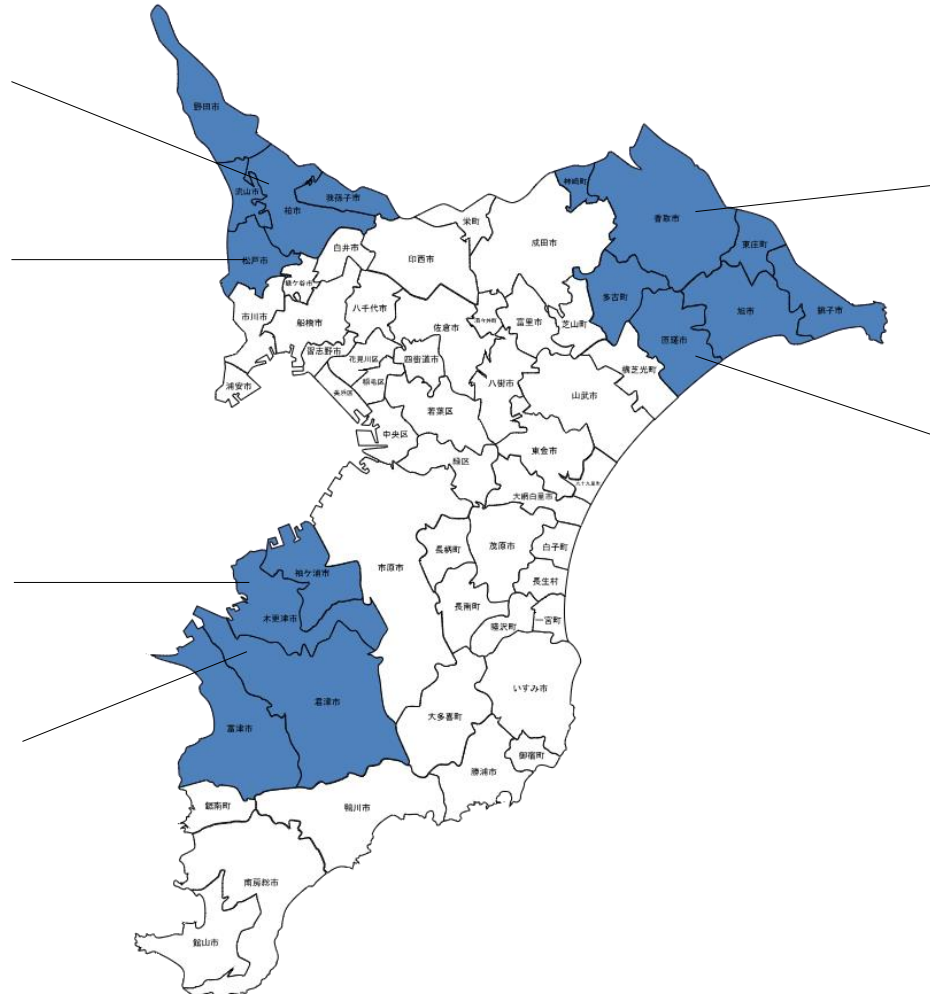
株式会社ノバ・メディクス

在宅

たすけあい訪問介護センター

施設

九十九里ホーム飯倉駅前特別養護老人ホームシオン



02 研修・伴走支援_モデル事業所取組内容（東葛北部圏域）

各モデル事業所の取組内容、業務改善の成果等は以下のとおり

【施設系・柏市】

事業所名	社会福祉法人涼風会 特別養護老人ホーム柏きらりの風
事業所規模	職員数74名（常勤職員45名、非常勤職員29名）
取組概要	- 夜間の訪室回数が多く、夜勤者の身体的・精神的負担が課題であったため、見守り支援機器「眠りSCAN」を40台導入した。センサーによる見守りを導入し、利用者の状態をタブレット画面上で確認できるようにすることで、これまで必要であった訪室による目視確認を減らし、訪室回数の削減を図った。 - 業務アドバイザーによる伴走支援を通じて、慣例的に実施していた早番・夜勤者間の対面による申し送り業務を見直した。既存の介護記録ソフト「ほのぼのNEXT」の記録機能およびビジネスチャット「direct」のチャット機能を活用し、口頭中心の引継ぎからシステムを介した情報共有へと転換した。これにより、申し送りに伴う残業時間の削減を図った。
業務改善の成果	「眠りSCAN」の活用により、夜間の巡回について精神的負担を感じない職員の割合が42.5%→56.4%に増加した。 - 既存の「ほのぼのNEXT」および「direct」の機能を活用することで、申し送りに関する準備および申し送りに要する時間を職員一人当たり約30分/日削減した。

【在宅系・松戸市】

事業所名	医療法人社団のぞみ会 のぞみ会居宅介護支援事業所
事業所規模	職員数5名（常勤職員5名、非常勤職員0名）
取組概要	- 訪問後の記録作成やケアプラン作成に多くの時間を要しており、加えて日々届く書類の仕分け・保管・検索業務の負担が大きい状況にあった。書類量の増加により必要な書類を探す時間も増え、職員の精神的負担の増大が課題となっていた。 - この課題に対して、AI分析・ケアプラン作成ツール「SOIN」を活用し記録作成業務の効率化を図るとともに、書類自動仕分けシステム「クロジカAI書類管理」を導入し、書類管理の一元化と検索時間の短縮を図った。さらに、複合機と連携することでFAXのデジタル化・ペーパーレス化を進め、書類管理業務の負担軽減に取り組んだ。
業務改善の成果	- AI分析・ケアプラン作成ツールの活用により、記録の抜け漏れや記憶違いへの不安が大幅に軽減された。記録業務に関する安心度アンケート（5点満点）では、機器導入前の1.2点→4.8点に向上した。 - 書類自動仕分けシステムの活用により、1か月あたりの提供票送付関連業務に要する時間が約400分→約200分に削減された。また、提供票の郵送に要していた費用（約15,000円/月）も削減された。

02 研修・伴走支援_モデル事業所取組内容（香取海匠圏域）

・ 各モデル事業所の取組内容、業務改善の成果等は以下のとおり

【施設系・匝瑳市】

事業所名	社会福祉法人九十九里ホーム 九十九里ホーム飯倉駅前特別養護老人ホームシオン
事業所規模	職員数65名（常勤職員41名、非常勤職員24名）
取組概要	・ 移乗支援機器「Hug」が2フロアに対して1台のみであったことから、利用調整や機器移動に時間を要し、直接的なケアに関わらない間接業務が増加していることが課題となっていた。また、入浴介助業務においても身体的負担を感じる職員が多く、職員の負荷軽減が求められていた。 ・ このため、移乗支援機器「Hug」を追加導入し、機器確保に伴う移動時間の削減を図った。また、利用者のトイレでの排泄介助においてHugを活用することで、一人での介助を可能とし、見守り時間の確保につなげることを目指した。 ・ さらに、入浴支援機器「ピュアット」を導入し、洗身介助時における職員の身体的負担の軽減に取り組んだ。
業務改善の成果	・ 「Hug」の追加導入により、機器の貸し借りに関する移動回数が1日あたり6回削減された。また、機器の移動に伴う1日平均移動距離は800m削減、移動時間は約7分30秒削減された。 ・ 「ピュアット」の導入により、入浴業務に関して身体的負担を感じる職員の割合が67%から10%まで低下した。

【在宅系・香取市】

事業所名	有限会社たすけあい たすけあい訪問介護センター
事業所規模	職員数12名（常勤職員10名、非常勤職員2名）
取組概要	・ 「シフトの作成」や「作成したシフトのホワイトボードへの転記」など「間接業務時間が多い」という課題があった。 ・ このためサービス責任者が実施していた「シフトの作成」については、訪問ルート最適化システムである「ZEST」の導入し、「ホワイトボードへの転記」という課題については、PCに接続するのみで大画面に投影できるデジタルディスプレイの導入することで、間接業務の削減を図った。 ・ また、職員間の状況共有を円滑化するため、介護ソフト「CARE KARTE」付属のケアコネ（チャットツール）を導入し、訪問時も職員間の円滑なコミュニケーションや情報共有が図れるよう業務改善を行った。
業務改善の成果	・ 訪問ルート最適化システム「ZEST」の活用により訪問ルートが最適化され、職員1人当たりの移動時間が23%減少した。また、特定職員に偏っていた訪問先の担当者の変更・分散にも成功した。 ・ デジタルディスプレイの導入により、シフト転記業務が不要となった。また、身近な業務がオンライン化されたことにより、職員の業務改善への意欲が高まるという副次的効果があった。 ・ 介護ソフト「CARE KARTE」の導入により情報共有のデジタル化が進み、職員間の情報共有の円滑化が図られた。その結果、「情報共有が満足にできている」と感じる職員の割合が0%→43%に上昇した。

02 研修・伴走支援_モデル事業所取組内容（君津圏域）

- 各モデル事業所の取組内容、業務改善の成果等は以下のとおり

【施設系・木更津市】

事業所名	社会福祉法人かずさ萬燈会 特別養護老人ホーム中郷記念館
事業所規模	職員数50名（常勤職員27名、非常勤職員23名）
取組概要	- 身体露出を伴う介助を複数職員で実施することに対する身体的・心理的負担の軽減および、入浴業務においては限られた人員での運営可能な体制の整備を目指す。このため、特殊浴室に「SOEL-CX（天井走行リフト）」を導入する。 - なお、多くの職員が天井走行リフトを活用できるよう、 - リフト操作に習熟した職員が操作に不慣れな職員をサポート - リフトを活用することを前提とした業務体制に見直す - などの工夫を行い、現場職員の理解を得ながら円滑な導入を進めた。
業務改善の成果	- リフトの活用により、入浴介助に従事する職員数が2人→1人となり、限られた人員での運営が可能となった。また、入浴介助に要する時間は1日当たり概ね80分削減され、その時間をユニット内の利用者へのケアに充てることが可能となった。その結果、職員1人あたり約10分程度のユニットケアの時間を創出することができた。 - リフトの活用により、創出された時間をユニットケアに充てること、利用者一人ひとりに向き合うケアの充実につながるなど、ユニットケアの理念に沿った業務改善を実現することができた。

【在宅系・君津市】

事業所名	株式会社ノバ・メディクス
事業所規模	職員数12名（常勤職員10名、非常勤職員2名）
取組概要	- 利用者への初回訪問記録作成やケアプラン作成等を手書きで行っており、業務に多くの時間を要していた。テクノロジーを活用することで業務の効率化を図ることとした。 - 利用者への初回訪問時の記録作成において、介護業界向けの議事録・記録作成ツール「noman」を導入し、紙による記録のデジタル化を図った。 - 現場事業所との連絡業務については、従来FAXにより実施していた連絡方法を見直し、コミュニケーションツール「Sapon」を導入した。 - ケアプラン作成においては、ケアマネジメント支援システム「SOIN」を活用し、記録システム「ワイズマン」への入力作業の効率化を図るとともに、ケアプラン作成業務の改善に取り組んだ。
業務改善の成果	- 記録作成ツール「noman」の活用により、職員1人当たり月約13時間の記録業務時間の削減につながった。 - 連絡ツール「Sapon」の導入により、FAX送付ミスや送付漏れに対する職員の負担感について、「負担あり」と回答した職員の割合が100%→0%となり、精神的負担の軽減につながった。 - 書類の電子化により紙での出力が大幅に減少し、月約1,400枚消費していた用紙がほぼ不要となるなど、コスト削減にもつながった。

千葉県介護業務効率アップセンター_介護業務改善事例発表会・体験展示

- 3/12（木）千葉県業務改善支援事例発表会・介護テクノロジー体験展示会を実施。開催概要は下記のとおり

■千葉県介護業務改善事例発表会 介護テクノロジー体験展示会概要

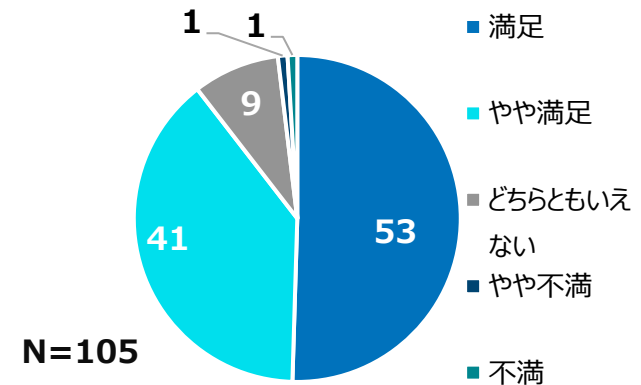
- 日時：2026年3月12日（木）13:00-16:00
- 場所（会場・web）：オークラ千葉ホテル・Zoom
- 参加実績（会場：144名、web：108名、計252名）
- プログラム
 - ✓ 令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり
内閣総理大臣及び厚生労働大臣表彰 表彰状伝達式
 - ✓ モデル事業所による事例発表
 - ✓ モデル事業所による業務改善・働きやすい取組の
パネルディスカッション
 - ✓ 介護テクノロジー体験展示



介護業務改善事例発表会



介護テクノロジー体験展示会



満足度アンケートの結果

千葉県介護業務効率アップセンター_介護業務改善事例発表会・体験展示のご意見・ご感想

- ・ 介護業務改善支援事例発表会および介護テクノロジー体験展示会における参加者のご意見・ご感想の抜粋は下記のとおり

介護業務改善支援事例発表会に関するご意見・ご感想

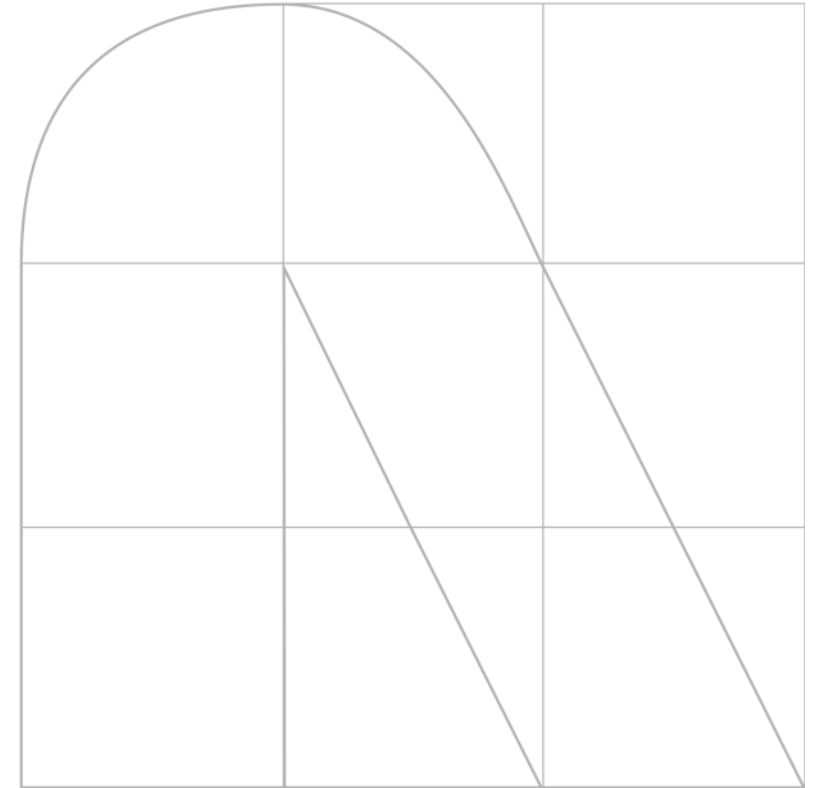
- ✓ 訪問介護事業所や居宅介護支援事業所などの在宅系の話が聞けたことがよかった。
- ✓ 事例内容がわかりやすくまとまっていて、内容が濃くわかりやすかった。時間も短く過ぎず、長過ぎず、ちょうどよかった。
- ✓ 自事業所と同様の課題を抱える取り組みを聞くことができ参考になった。
- ✓ まったく知らない介護テクノロジーなどの話しも聞け、今後導入に向けた検討したいと思い、大変参考になった。
- ✓ 発表を聞いて、介護テクノロジーを使うことで、高齢になっても働ける職場環境整備も夢ではないと思いました。
- ◆ なぜその機器を選んだのか？より詳細な内容が聞きたかった。
- ◆ 「やってよかった」という話だけでなく、取組んではみたもの上手いかず、挫折した経験なども発表していいのではないかな。

介護テクノロジー体験展示会に関するご意見・ご感想

- ✓ 興味がある介護テクノロジーに出会うことができた。
- ✓ 様々な介護テクノロジーを知ることができるうえに、説明も丁寧であった。
- ✓ AIケアプラン作成システムなど、新たな技術を活用した介護テクノロジーを知ることができた。
- ✓ 事例発表会と隣接のされた会場であったため、移動がしやすい点が良かった。
- ◆ 展示会場は混雑して人があふれていた。また、展示会を回る時間が少なかったと感じた。
- ◆ 発表やパネルディスカッションで紹介のあった機器と展示機器が同一か分かりにくかった。

03

周知活動



03 周知活動_HPのリニューアル

- HPのデザイン、内容をリニューアル。研修や伴走支援のイメージを伝えるための動画コンテンツ、事例集を年度末に拡充予定

トップページ

千葉県
介護業務効率アップセンター

043-216-2011
受付：9:00～17:00（月～金）土日祝休

CONTACT
お問い合わせ

お知らせ / 補助金情報 / よくある質問 / お役立ち情報

センターについて / 介護施設・事業所の方へ / 開発企業の方へ / 研修・伴走支援・モデル事業所の養成・先進事例

介護現場における
業務改善の推進

相談対応の流れ

相談対応の場合

1 お申込み
Webフォーム等からお申込みください

2 日程調整
担当者よりご相談日程を調整いたします

3 ご相談
来訪またはオンラインでご相談いただけます

4 対応実施
内容に応じてご相談に対応いたします

5 アンケート
相談終了後にアンケートをご提出ください

試用貸出申込の場合

1 機器の選定
介護テクノロジーの試用品リスト等から貸出し希望機器を選定いただけます

2 お申込み
Webフォーム等からお申込みください

3 メーカー連絡
メーカーより直接ご連絡いたします

4 試用貸出し開始
貸出機器をご利用いただけます

5 アンケート
貸出し期間終了後にアンケートをご提出ください

CONTACT

よくある質問

千葉県介護業務効率アップセンターについて

Q どのような事業が相談できますか？

A 千葉県内に所在する介護施設等にまつる介護サービス事業所および介護テクノロジー開発企業が対象です。

Q どのような相談ができますか？

A 業務改善、介護テクノロジーの導入支援、各種補助金申請、業務改善研修、併走支援など幅広い相談が可能です。

Q 相談や支援に費用はかかりますか？

A 相談・研修・併走支援すべて無料です。（交通費や一部設備等の費用は自己負担の場合あり）

Q 所在地、営業アクセスは？

A 〒105-8555 東京都港区新橋 1-1-1 新橋1丁目1番1号
〒105-8555 東京都港区新橋 1-1-1 新橋1丁目1番1号
〒105-8555 東京都港区新橋 1-1-1 新橋1丁目1番1号

Q 連絡先・受付時間は？

A TEL：043-216-2011
FAX：043-202-1833
MAIL：kaijochiba@kaijo-center.jp
受付時間：平日9:00～17:00（月～金）土日祝休

伴走支援紹介動画

動画表示イメージ：準備ができるまでは非表示

動画タイトルテキストテキストテキスト

すべての動画を見る

※掲載準備中

事例集

Coming Soon

タイトルタイトル

テキストテキストテキストテキストテキスト

詳しく見る

モデル事業所エリアマップ

※画像はイメージ

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

24

NTT DATA 株式会社NTTデータ経営研究所

03 周知活動_事例集の作成

- モデル事業所の具体的な取り組み内容・成果・メッセージを取りまとめた事例事例集を作成中。年度末にホームページにて公開予定

※掲載準備中

Image

介護現場における業務改善
モデル事業所事例集



チーバくん

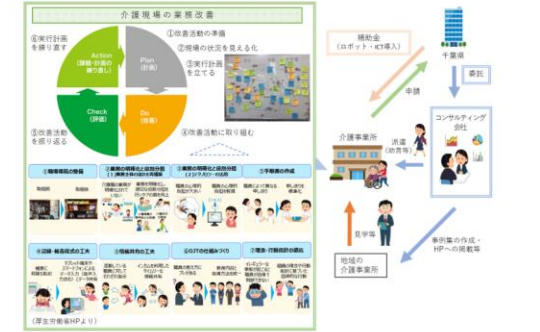
千葉県介護業務効率アップセンター

Image

モデル事業所とは？

■ モデル事業所の養成事業概要

- 千葉県の高齢者保健福祉圏域である9つの圏域において、業務改善の取り組みを通じた職場環境づくりについて、けん引役となるモデル事業所を養成し、地域の取り組みを促進することを目的としています。
- 各圏域に施設系・居宅系事業所の1事業所ずつを選定しています。その内、令和7年度は3圏域（東葛北部、香取海陸、君津）で計6事業所を養成しています。
- モデル事業所は介護テクノロジー導入等によって業務改善を図るとともに、周辺事業所からの見学受け入れなどにより業務改善の普及につなげていく取り組みも行う予定です。



3

Image

特別養護老人ホーム柏きらくの風

(柏市・東葛北部圏域)

■ 事業所データ

- サービス種別：介護老人福祉施設
- 所在地：柏市西原2-9-1
- 入居者数：80名（10ユニット）
- 職員数：80名（常勤 52名、非常勤 28名）



■ 取り組みの概要

- 夜間の訪室回数が多く、夜勤者の身体的・精神的負担が課題だったため、見守り支援機器「眠りSCAN」を40台追加導入した。センサーによる見守りを全室導入し、利用者の状態をタブレット画面上で確認できるようにすることで、これまで必要だった訪室による目視確認を減らし、訪室回数を削減した。加えて、「眠りSCAN」で取得した睡眠データを分析し、昼夜逆転傾向のある利用者を顕在化した。そして、当該利用者に対し日中の活動量を増やす支援を行うことで、睡眠リズムの安定化を図るなど、「ケアの質の向上」にも取り組んだ。
- また、業務アドバイザーによる伴走支援を通じて、慣例的に実施していた早番・夜勤者間の対面による申し送り業務を見直した。既存の介護記録ソフト「ほのほのNEXT」の記録機能及び、ビジネスチャット「direct」のチャット機能を活用し、口頭中心の引継ぎからシステムを介した情報共有へと転換することで、申し送りに伴う、残業時間の削減を図った。

■ 取り組みのポイント

- 【負担軽減とケアの質向上】 夜間の見守りに関する身体的・精神的負担軽減を目的として導入した「眠りSCAN」の睡眠データを活用し、利用者の睡眠リズム改善まで踏み込むことで、負担軽減とケアの質の向上」を同時に実現した。
- 【記録業務の効率化】 事業所内のDX委員会だけでは取り組み切れなかったが、伴走支援による第三者の視点を取り入れることで慣例化していた申し送り業務をシステム化でき、残業時間を削減した。

■ なぜ「見守り支援機器」の業務改善に取り組んだのか



プロジェクトリーダー 岡田さん（副施設長）

夜間巡回を1時間に1回行う中で、入居者の安眠を妨げてしまうことや、深い眠りの状態で排泄介助が拒否につながることを課題と感じていました。入居者一人ひとりの生活リズムや覚醒の兆しに寄り添った支援を行いたいという思いから、全床に眠りSCANを導入しました。

必要なときに必要な支援を行うことで、安心して眠れる環境づくりと、職員の負担軽減の両立を目指しました。



6

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

25

NTT DATA 株式会社NTTデータ経営研究所

03 周知活動_事例集の作成

- ・ 伴走支援事業所やモデル事業所の取組を題材とし、業務改善の一連のプロセスに加え、経営者や介護リーダー職が業務改善の各段階で直面する課題や意思決定のポイントが理解できる動画を作成し、ホームページにて公開

伴走支援事業所の取組み動画



モデル事業所の取組み動画



※掲載準備中



Lighting the way
to a brighter society